

ネコのクローナリティー解析の改良



ネコのリンパ腫(リンパ性白血病)の検査としてクローナリティー解析(遺伝子再構成解析)がイヌ同様に一般的となりました。ケーナインラボでも多くの先生方にご利用いただきましたが、イヌと比較すると「精度が良くない」、「確立された方法ではない」、「改良が必要である」など意見がありました。そこで、これらの意見を受け、**東京大学獣医内科学教室**、および**同大獣医病理学教室**が発表した論文を参考に、ネコのクローナリティー解析の改良を行いました。解析結果を掲載しましたので、ご参照下さい。

新旧検査の検出率の比較

細胞診によりリンパ腫と確定診断のついた41症例(リンパ芽球の著しい増殖)、および反応性過形成と診断された23症例(成熟リンパ球と炎症性細胞が出現)それぞれについて、従来の方と改良された方法の検出率を比較しました。

リンパ腫(41症例)

検査結果	従来		改良後	
	割合(症例数)		割合(症例数)	
Tリンパ球に異常	19.5% (8)	85.4% (35)	41.5% (17)	85.4% (35)
Bリンパ球に異常	48.8% (20)		39.0% (16)	
T・Bの判別はつかないが異常	17.1% (7)		4.9% (2)	
異常検出されず	14.6% (6)		14.6% (6)	

*括弧内は症例数、「異常」はモノクローナル

改良の前後により、検出率に差は認められませんでした。しかし、「Tリンパ球の異常」、「Bリンパ球の異常」および「T・Bの判別はつかないが異常」の割合が大きく変動しました。

今回の改良で参考にした論文では、免疫染色またはリンパ球表面マーカー解析で得られたT/B分類の結果とクローナリティー解析の結果を比較しています。その結果、**免疫染色またはリンパ球表面マーカー解析により「Tリンパ球の異常」(「Bリンパ球の異常」)と判定された症例のうち、87%(84%)の症例でクローナリティー解析によりT(B)リンパ球の異常が検出されています。**この結果から、改良後のクローナリティー解析は改良前に比べ精度が改善したと考えられます。

反応性過形成(23症例)

検査結果	従来		改良後	
	割合(症例数)		割合(症例数)	
Tリンパ球に異常	0% (0)	4.3% (1)	13.0% (3)	17.3%(4)
Bリンパ球に異常	4.3% (1)		4.3% (1)	
T・Bの判別はつかないが異常	0% (0)		0% (0)	
異常検出されず	95.7% (22)		82.7% (19)	

*括弧内は症例数

従来の方では異常が検出されなかった症例のうち、改良後にTリンパ球に異常が検出されたものが3症例ありました。しかし、細胞診で非腫瘍性と診断された症例の82.7%で異常は検出されなかったことから、改良後も特異度の高い検査であると考えられます。形態学的評価とクローナリティー解析の結果が異なる場合には、イヌ同様に経過を慎重に経過を観察する必要があります。

株式会社 ケーナインラボ

〒184-0012 東京都小金井市中町2-24-16

農工大・多摩小金井ベンチャーポート302

電話:042-401-2291(代表)

042-401-2294(検査室)

FAX:042-382-7384

HP:www.canine-lab.jp E-mail:info@canine-lab.jp



検体集荷

株式会社 モノリス

〒182-0012

東京都調布市深大寺東町8-31-6

電話:042-443-7200(代表)、042-443-6181/6183(集荷)

FAX:042-443-6182

